

設立20周年記念誌

あゆみ

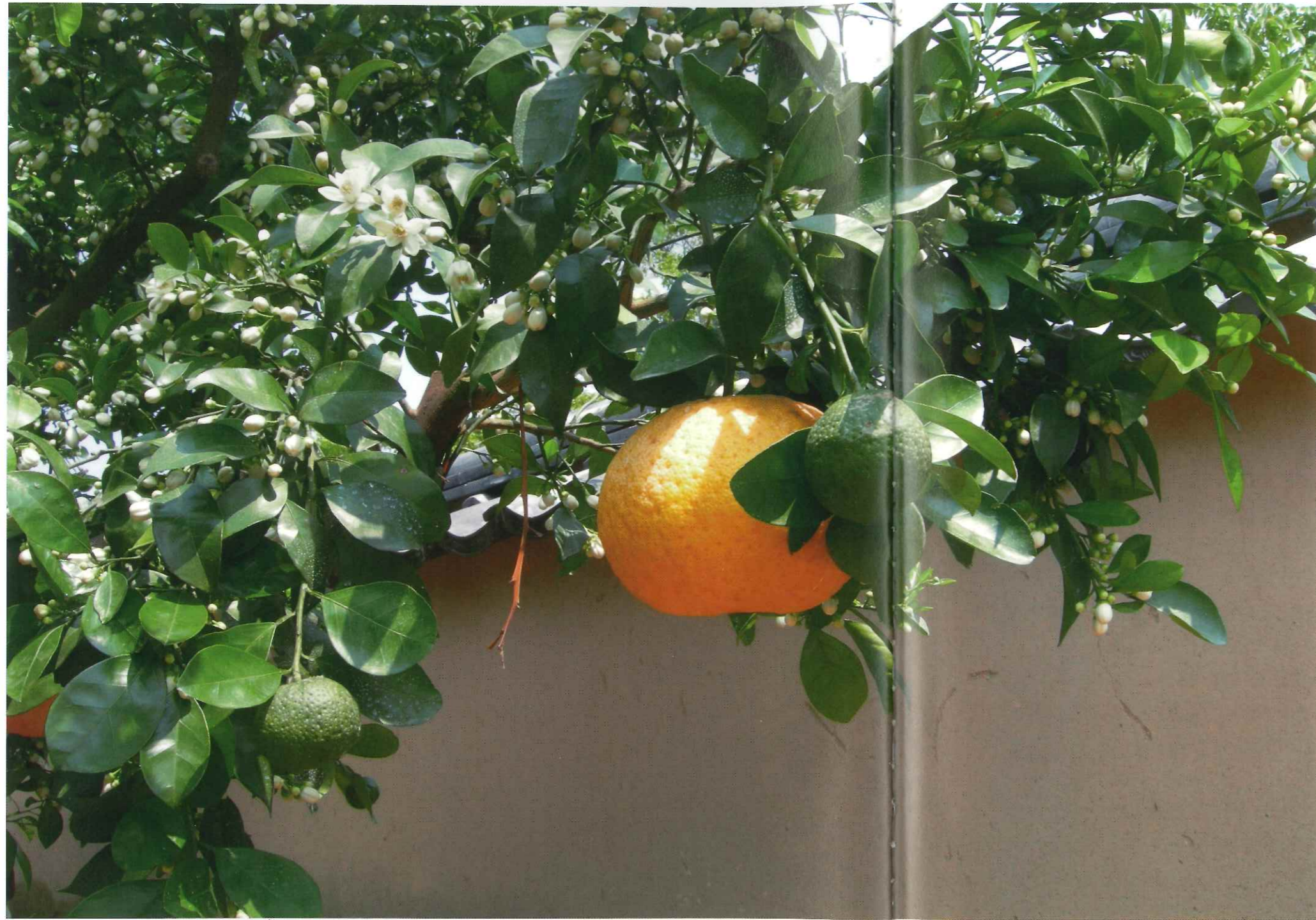
社団法人 萩広域シルバー人材センター

設立20周年記念誌

あゆみ



社団法人 萩広域シルバー人材センター



目次

理事長あいさつ	1
祝 辞 市長・町長・連合会長	2
20年のあゆみ	5
須佐・田万川統合までのあゆみ	25
親睦会・同好会活動	29
発注者の声	31
会員の広場	35
表彰者の紹介	38
会報誌「いまだ青春」創刊号～39号	39
資 料	41
歴代役員・職員	44
現役員・職員紹介	47
設立20周年記念事業実行委員会 編集後記	49

設立20周年を迎えて

理事長 池永 勲



県下で初めての2市1町(萩・長門・三隅地区)にまたがる、広域シルバー人材センターとして、昭和61年9月に設立され、関係機関・企業・住民各位の御支援、御協力を頂き、歴代の役職員、会員の熱意と努力により成長発展をし、今年20周年の節目を迎えることに、心から敬意と感謝を申し上げ皆様と共にお祝いをしたいと思っております。

当事業は、健康で働く意欲を持った高齢者が、知識・技能・経験を生かし生きがいの充実を図り、活力のある地域社会づくりに寄与することで、設立当初の会員数347人、契約高1千7百万円、就業率63.4%で計画を上回る好結果を得ました。

その後、平成4年3月に萩・長門・三隅地区の広域シルバー人材センターを分割、同年4月に新たに、萩市・阿武町・むつみ村の萩広域シルバー人材センターを設立、会員数402人、契約高1億4千8百万円、就業率80.3%で、以後会員の活動強化、努力によって順調に実績を積み重ねてきました。

また、平成17年4月には、社団法人須佐・田万川広域シルバー人材センターと統合し、会員数804人、契約高3億5千2百万円、就業率90.0%と事業範囲も広がり幾多の変遷を経ながらも、役職員、会員の熱意と粘り強い努力により健全な運営を致しております。

今後の課題は、統合により平成18年から22年までの5ヶ年で激減緩和措置を講じながら、国・県の補助金が削減されます。このことから、当シルバー人材センターとしても、今後の運営が厳しくなるため財務5ヶ年計画を策定して、その方針に従い、収入面における就業機会の開拓と拡大、支出面では、経費の見直し節減を図り、自主財源の確保に努力をして、足・腰の丈夫な地域社会になくしてはならないシルバー人材センターとして発展繁栄することを念願するものであります。

20周年を契機に初心にかえり、シルバー人材センターの基本の理念であります「自主・自立・共働・共助」の精神を念頭に、地域に愛される魅力あるシルバー人材センターとしてがんばって参ります。今後とも、関係各位のご指導とご支援を賜りますよう、お願い申し上げますとともに、会員・役員の皆様のご活躍とご健勝を祈念し、ご挨拶といたします。

祝辞

お祝いの言葉

萩市長 野村 興兒



社団法人萩広域シルバー人材センターの設立20周年を心からお慶び申し上げます。萩広域シルバー人材センターの会員の皆様方におかれましては、シルバー人材センターの発展のため、日夜ご尽力され、市政に対しましても多大なご協力をいただいておりますことに、まずもって深甚なる敬意と謝意を表したいと存じます。

我が国の経済は、輸出・生産の増加による企業収益の改善や堅調に推移する個人消費等により、景気回復の途上にあります。地方経済に目を向けると、中小企業とりわけ小規模企業は、未だ景気回復を実感できる状態にはなく、以前にも増して厳しい環境下にあります。

シルバー人材センターを取り巻く環境も大きな変革の時期であり、我が国の合計特殊出生率は2004年時点で1.29に低下し、少子化が進む一方、平均寿命の伸長とともに高齢化が進展し、2007年から総人口は減少に転じ、労働力人口も減少することが予想されます。

山口県では、高齢化が全国よりも10年近く早く進んでいます。特に、萩市においては高齢化率が県平均より高く、少子・高齢化が急速に進展しております。今後、意欲と能力のある高齢者の方々が活躍される場を提供することが課題であり、シルバー人材センターの役割は大きいと考えております。

また、2007年から2009年にかけて団塊の世代の大量退職時代(2007年問題)が到来することとなり、団塊の世代の受け皿として就業分野の開拓や職業能力の開発が期待されるところであります。

本年は新萩市が誕生して2年目に当たり、新市建設計画で定める「自然と歴史、文化に抱かれた健やかでうるおいのあるまち」の実現を目指し、各種産業基盤の整備を促進するとともに農林水産業及び商工業の振興を図り、調和のとれた市政の発展を推進するよう努力しているところであります。

どうか皆様方におかれましても、今後住民のニーズはますます多様化していくと思われまますが、シルバー人材センターの発展のため、更にご尽力を賜りますようお願い申し上げます。

終わりに当たりまして、社団法人萩広域シルバー人材センターのますますの発展と皆様方の御自愛御研さんを心から祈念いたしまして、お祝いの言葉といたします。

お祝いの言葉

阿武町長 **中村 秀明**



社団法人萩広域シルバー人材センターの設立20周年記念を心からお祝い申し上げます。

貴センターにおかれましては、昭和61年に萩・長門・三隅地区広域シルバー人材センターとして設立されたところではありますが、平成4年に1市1シルバー人材センターの基本方針のもとに萩広域シルバー人材センターとして分割編成を経て、本年20年という記念の年を迎えられたわけであります。

この間、高齢者の就業機会の確保のため、順調にその事業展開をしてこられましたことは、役職員をはじめ会員の皆様方のご努力の賜であると心から深く敬意を表するものであります。

さて、我が国は、これから団塊の世代が定年退職を迎える等、高齢化の進展に対応するために高齢者の就業機会を提供するシルバー人材センターの役割はますます重要になってくると思われまます。

阿武町といたしましても、基本構想、基本計画の中で、高齢者の方々が本来持っている能力を生かす場づくり、環境づくりなどの推進を図ることとしており、その実現に向け各種施策の展開を図っているところであります。

今や当地域にとりまして、貴センターはなくてはならない存在となっております。今後、さらに事業拡大が図られ、地域社会の活性化に貢献されることを期待しております。

どうか会員各位におかれましては、長年培われた豊富な経験や知識を十分に発揮され、地域社会の発展により一層ご尽力いただきますようお願い申し上げます。

終わりに、貴センターの今後ますますのご発展と会員の皆様のご健勝、ご活躍を心からお祈り申し上げます、お祝いの言葉といたします。

萩広域センター20周年祝辞

社団法人山口県シルバー人材センター連合会
会長 **西村 太一**



このたび、社団法人萩広域シルバー人材センターが設立20周年を迎えられましたことを、心からお祝い申し上げます。

貴センターにおかれましては、昭和61年に設立以来シルバー事業の推進と発展にご尽力され、地域社会のために大きな評価を得ながら事業を展開し、元気な高齢者の方々が、この事業のもとに生き活きと働き、健康と生き甲斐を見い出しながら、活力ある高齢社会作りにも貢献されているところであります。

これもひとえに理事長様をはじめ、役職員・会員の皆様方や地域社会の方々、そして何よりも山口県・萩市・阿武町ご当局の、この事業に対する深いご理解とご支援の賜物と感謝申し上げます。

ところで、平成の大合併により、27を数えた本県のシルバー人材センターも本年4月には15センターに統合され、大規模化、広域化されてまいりました。さらに、来年には、団塊の世代がシルバー世代を迎えることとなり、これらのニーズに応えるため、多様な就業形態や就業機会の提供など、高齢者のワンストップセンターとしての役割が求められています。

こうした中、シルバー事業の果たす役割は益々重要性を増し、これからの高齢社会に欠かすことの出来ない事業として期待も高まっています。

一方、国の行財政改革に伴う運営費補助の見直しに加え、自主財源の確保や運営の効率化など一層の自立化に向けた取り組みが求められています。

私ども連合会と致しましても、県下シルバーが一丸となって、センター事業の原点である「自主・自立、共働・共助」を理念とした事業運営に努め、こうした環境の変化や課題に的確に対応した活力あるセンターづくりを目指して参りたいと存じます。

どうか、設立20周年を契機と致しまして、関係の皆様方の英知と熱意のもとに事業が展開され、その活動を通じてセンター事業がさらに発展されますことを心から祈念いたしますとともに、会員並びに役職員の皆様方のご健勝とご活躍を心からお祈りいたします、お祝いの言葉といたします。

1986

1986 (昭和61年)

- 8.20 社団法人萩・長門・三隅地区広域
シルバー人材センター設立
設立総会(萩市観光文化センターに於て)
- 9.1 萩事務所(兼萩支所)長門・三隅支所を開設
- 9.6 社団法人の設立許可書が山口県知事から
交付される
- 9.10 法人としての登記完了



設立総会で井町理事長挨拶



設立総会風景



設立総会受付風景



設立総会で会員の活発な意見発表

1987

1987 (昭和62年)

- 9.24 臨時総会をサンライフ萩体育室で開催
会報「いきいき」創刊号発行
- 10.5 サンライフ萩の建物の竣工に伴い、
主たる事務所をサンライフ萩内に移転
就業開拓員集会
地区別会員集会、就業職群別集会を延べ
15回実施



サンライフ萩に事務所を設置



サンライフ萩に事務所移転



襖張り講習会



田床山「いこいの広場」での就業風景

1988

1988 (昭和63年)

- 10. 18 会員親睦旅行第1回(鹿野漢陽寺)
- 11. 6~7 就業開拓会員研修会
職能向上、技能開発会員研修会開設



筆耕講習会



観光案内



料理講習会

1989

1989 (昭和64年1月1~7日・平成元年)

地区会員集会
地区内の会員の相互親睦と連携を密にするため9地区に分けて開催

地区世話人集会 年2回実施

- 8. 2 夏まつり「ヨイショコショ踊り」に参加
事務局にコンピューター導入



地区世話人集会



地区会員集会(江向地区)



夏まつり「ヨイショコショ踊り」に参加



会員作品展(普及啓発活動)



事務局にコンピューター導入

1990

1990 (平成2年)

- 6. 27 広域会員合同研修会で池本整形外科医院長から高齢者の健康管理について講義を受ける
- 6 「月刊シルバー人材センター」6月号で当広域シルバー人材センターの運営状況が全国で紹介された
会報萩事務所だよりを「いまだ青春」とし1月と10月に発刊することにした
いきがい就業の基本となる「安全のしおり」を配付
- 12. 7 社団法人萩・長門・三隅地区広域シルバー人材センター設立5周年記念事業実行委員会発足



萩焼窯での就業



設立5周年記念事業実行委員会会議



普及啓発活動でのチャリ配り



ふるさと祭り会場での就業

1991

1991 (平成3年)

- 4. 1 会費の改定 1,000円→1,200円
- 5. 27 第5回通常総会
設立5周年記念式典、祝賀会開催(於 萩本陣)
- 7. 2~31 ワープロ技能講習会
- 7. 18 } 社団法人萩・長門・三隅地区広域シルバー人材
- 9. 21 } センターの分割・再編に伴う連絡協議会開催
- 11. 1 }



設立5周年記念式典 小池市長祝辞



設立5周年記念式典 功労者表彰



設立5周年記念式典 井町理事長挨拶



ワープロ講習会始まる



設立5周年記念祝賀会

1992

1992 (平成4年)

再編に伴う会議

- 1. 17 萩地区役員会議
- 2. 25 阿武町・むつみ村設立発起人会議

シルバー人材センター事業説明会

- 1. 4 阿武町奈古・宇田地区
- 1. 9 阿武町福賀地区
- 2. 3 むつみ村吉部・高俣地区
- 3. 25 分割・再編に関する協定書の締結

4. 1 社団法人萩広域シルバー人材センター発足

5. 26 再編(萩・阿武・むつみ)による第1回通常総会
各種世話人会議(会報編集・夏まつり・ふるさとまつり出店・河川海岸清掃)



分割再編に関する臨時総会



再編による第1回通常総会



テルメ阿胡温泉(阿武)



桐箱製作所就業



河川海岸清掃

1993

1993 (平成5年)

4. 11 交通安全講習会(萩自動車学校)
会員就業現場視察(萩陶苑・田床山憩いの広場)

9 刃物研ぎ業務始まる

10 実用書道講習会

12



夏柑収穫に就業



刃物研ぎ講習会実技風景



刃物研ぎ講習会



実用書道講習会開会式



実用書道講習会実技風景

1994

1994 (平成6年)

- 萩市リサイクルセンターで業務につく
むつみ村リサイクルセンターで分別作業開始
- 1. 4 教養文化教室の活動開始
(園芸クラブ・カラオケクラブ・囲碁クラブ)
- 10. 9 美しい町萩実現市民大会で表彰される



萩市リサイクルセンターで就業



むつみ村リサイクルセンターで分別作業



教養文化教室 (園芸クラブ)



教養文化教室 (カラオケクラブ)



教養文化教室 (囲碁クラブ)



美しい町萩実現市民大会で表彰される

1995

1995 (平成7年)

- 2. 28 新職群班設置、各班初会合
- 3. 23 剪定・会場設営・草刈・観光地清掃
観光ガイド・刃物研ぎ・野外遊戯施設管理
筆耕・福祉家事援助・駐車場管理
- 4 阿武町リサイクルセンターで分別業務開始



草取り就業



新職群班会議



草刈払い機刃研ぎ講習会



美しい町萩実現市民大会に参加



阿武町リサイクルセンターで分別作業

1996

1996 (平成8年)

- 3. 28 ワークプラザ萩が現在地(萩市山田4253番地)に完成し事務所を移転する
- 4. 2 ワークプラザ萩の開所式が催される
作業所の設置により視・障子張り業務が本格化する
- 12 門松業務開始
地区世話人会議 各職群班会議



ワークプラザ萩 完成



ワークプラザ萩 開所式で理事長挨拶



門松業務開始



作業所での視・障子張り講習会



ワークプラザ萩 開所式で萩市長の祝辞

1997

1997 (平成9年)

- 5. 14 } 地区世話人会議
- 9. 3 } 安全委員会
- 6. 19 安全委員会
- 9. 3 } 職群班長会議
- 11. 8 } 職群班長会議
- 10. 13 観光施設管理及び案内業務開始
- 10. 23 萩広域シルバー人材センター
連絡協議会
- 12. 12 剪定講習会(指月石彫公園)



剪定講習会



野菜分別業務(むつみ)

山口

萩シルバー人材センター観光ガイド班

《阿武きよ子班長 10人》

「川沿いの民家は、川の流れを庭の池に引き込み、さらに台所に引いて炊事や洗い物をしたので、秋葉や洗った物も川で洗った。萩市の歴史、川沿いの武家屋敷、旧湯川家を訪れた観光客を案内する阿武さんたちは、江戸時代の典型的な川の利用法や家の歴史を説明する。

観光ガイド班は、新しい名所作りを、と市が城下町にある、維新の英雄木戸孝允や萩藩の御典医菅木尚弥宅の内部公開に備え、人材センターにガイドを依頼したのがきっかけ。九四年十月、同センターに登録している歴史好きが集まり発足した。

旧湯川家台所の様子を観光客に説明する阿武さん

六十一・七十八歳の男女のメンバーの職歴は元会社員や教師などさまざま。毎日、交代で重要文化財の住居四カ所のガイドを務める。

「説明すると次々と関連の質問が出て、目的を持って勉強しているのを楽しんでいる」と阿武さん。メンバーは、歴史講座や専門書で勉強しながら観光客の求めに応じて、それぞれの人物像や萩城下の歴史を解説する。

今年九月から公開した旧萩城三の丸にある口羽家宅を担当した野原さんによると、阿武さんたちは「自分の好きな歴史の話をして皆さんに喜ばれ、楽しい毎日です」と話している。

観光客に「萩に来て良かった」と感じてもらうのが班のモットーだ。

歴史や人物像など解説

一献の名酒

金黒松園

金黒松園 金黒松園 金黒松園

観光施設管理、案内業務が新聞に掲載される

1998

1998 (平成10年)

- 就業機会開拓専門員制度発足
- 2. 12 料理講習会 (萩市保健センター)
- 2. 14 料理講習会 (阿武町環境改善センター)
- 3. 23 料理講習会 (むつみ村農民研修所)
- 7. 29 交通安全講習会 (萩警察署交通課)
- 12 輪かざり作り業務開始



男性も参加しての料理講習会



輪かざり作り業務



就業機会開拓専門員



交通安全講習会



家畜飼料分別作業 (むつみ)

1999

1999 (平成11年)

- 4. 1 事務費を5%から8%に改定
理事会に専門部会発足
- 6. 28 第1回総務部会・事業部会委嘱 活動方針協議
- 7. 7 第1回部会長会議
- 8. 23 第1種介護講習会
福祉家事援助講習会
月刊シルバー記者来所取材
- 10. 7 第2回事業部会会議 (就業開拓の具体的方策)
- 11. 1 第2回総務部会会議 (財政運営の見直しについて)



芝刈機講習会



介護講習会



家事援助講習会



トリーマ取扱い講習会



月刊シルバー記者取材のため来所

2000

2000 (平成12年)

- 5.29 親睦会発足
- 7.18 職群班の襖・障子張り班、福祉・家事援助班を再編

理事会専門部会

- 8.10 第1回総務部会、事業部会会議
- 9.14 第2回事業部会会議
- 9.26 第2回総務部会会議



親睦会初代代議員



親睦旅行



シルバーフェスティバルで出店



総会でのアトラクション (詩吟クラブ)

2001

2001 (平成13年)

5.29 13年度総会

シルバー人材センター発足15周年の記念事業で優良会員・協力企業を表彰

パソコン講習開始

手芸クラブが発足し作品制作開始

担当理事制度発足、活動開始 (広報・就業・安全・福祉家事援助)



パソコン講習会



15周年記念事業で優良会員表彰



家事援助講習会



手芸クラブの作品制作風景



ふるさと祭り得手芸クラブ会員店

2002

2002 (平成14年)

1. 5 安全委員会

車の運転業務の増加に伴い県の交通安全学習館での体験講習会に参加

広報委員会5回 福祉家事援助委員会

就業調整会議4回開催

8. 1 「ほほえみ情報」第1号発行

10. 4 観光班が萩おもてなし大賞を受賞
(萩ケーブルネットワーク、萩おもてなし推進協議会主催)

11. 26 竹垣作り講習会

萩広域SC
ほほえみ情報

平成14年度事業実績 (4月~6月)

項目	14年度実績	13年度実績	12年度実績	11年度実績	10年度実績
会員数	1,187	1,149	1,051	958	878
会費収入	180	184	171	154	142
雑収入	117	117	117	117	117
雑支出	192	184	171	154	142
経常収支	412	314	227	167	115
繰上金	42	42	42	42	42
繰下金	42	42	42	42	42
累計	1,187	1,149	1,051	958	878

ほほえみ情報第1号



観光班が萩おもてなし大賞を受賞



家事援助講習 (床磨き実習)



竹垣作り講習会



草刈り講習会

2003

2003 (平成15年)

1. 3 剪定業務に剪定技能養成班設置

7. 11 山口県シルバー人材センター連合会主催の安全就業大会で山本達雄安全委員長が体験発表

9. 23 萩自動車学校で安全運転講習会

10. 3 元全シ協参事竹内弘氏の特別講演会 (サンライフ萩)

12 手芸クラブの作品「椿の花」が月刊シルバー12月号の表紙を飾る



剪定技能養成講座



安全就業大会で安全委員長の体験発表



元全シ協参事竹内弘氏の特別講演



萩自動車学校で安全運転講習



月刊シルバーの表紙を飾る
手芸クラブ作品

2004

2004 (平成16年)

- 2. 4 市町村合併に伴う須佐・田万川広域シルバー人材センターとの統合協議会始まる
- 7. 8 山口県シルバー人材センター連合会主催の安全就業大会で萩広域シルバー人材センターが安全就業優良センターとして表彰を受ける
- 9. 1 萩広域シルバー人材センターと須佐・田万川広域シルバー人材センターと統合に関する協定書に調印
観光船の就航に伴い船頭業務に就業



安全就業大会で優良センターとして表彰を受ける



統合協定書調印式



蜂駆除業務開始



観光船の船頭業務に就く

2005

2005 (平成17年)

- 2. 15 萩広域シルバー人材センターと須佐・田万川広域シルバー人材センターとの統合に関する案件について臨時総会を開催
- 4. 1 萩広域シルバー人材センターと須佐・田万川広域シルバー人材センターが統合し新萩広域シルバー人材センターが誕生する
- 5. 12 理事会に総務部会・事業部会を設置
- 9. 29 9月理事会で平成18年9月に設立20周年記念式典を開催する
記念式典・記念誌の編集部会を設置し準備を進めることを決定
- 12 理事長の諮問に対し各部会より答申書を提出



須佐・田万川事務所



臨時総会



普及啓発活動、会員募集



安全就業活動



普及啓発活動、説明会

1996

1996 (平成8年)

- 10. 1 須佐町高齢者人材活用センター設立



設立看板 小川健会長

1997

1997 (平成9年)

- 4. 22 第1回通常総会



海苔石 竜のヒゲ定植

1998

1998 (平成10年)

- 5. 8 第2回通常総会 (役員改選)



大根島研修視察

1999

1999 (平成11年)

- 4. 1 須佐町シルバー人材センターに名称変更
- 5. 20 第3回通常総会



須佐町ふるさとまつり出店



筆耕講習会

2000

2000 (平成12年)

- 5. 17 田万川設立に伴い須佐・田万川広域シルバー人材センターに名称変更
第4回通常総会 (広域化による役員改選)
- 5 就業機会開拓専門員1名配置
- 8. 8 県連合会安全パトロール実施
- 10 県連合会経験交流大会で発表



法人設立総会



山口きらら博見学



海浜清掃ボランティア



家庭園芸講習会



全シ協指導訪問

2001

2001 (平成13年)

- 5. 11 法人認可に伴う設立総会・第1回通常総会
- 6. 8 法人認可に伴い社団法人須佐・田万川広域シルバー人材センターに名称変更
- 12. 20 全シ協指導訪問

2002

2002 (平成14年)

- 5. 14 第2回通常総会

2003

2003 (平成15年)

- 5. 14 第3回通常総会
- 7. 2 第1回地域班長会議
- 9. 27 SSD協議会結成式



第1回地域班長会議



玉葱収穫作業

2004

2004 (平成16年)

- 2. 4 市町村合併に伴う萩広域シルバー人材センターとの統合協議会始まる
- 4. 7 SSD協議会ルート191セーフティロードキャンペーン(持石海岸)
- 5. 13 第4回通常総会
- 7. 22 地域班会議(須佐・弥富・小川・江崎)
- 9. 1 須佐・田万川広域シルバー人材センターと萩広域シルバー人材センターとの統合に関する協定書に調印
- 12. 21 山口県商工労働部実地検査



SSDリーダー研修会



調理実習

2005

2005 (平成17年)

- 2. 10 社団法人須佐・田万川広域シルバー人材センター解散総会
- 4. 1 須佐・田万川広域シルバー人材センターと萩広域シルバー人材センターが統合し新萩広域シルバー人材センターが誕生する



解散総会



霧島神宮参拝

親睦旅行



鳥取燕趙園



出雲大社



楽しい夕食

親睦会・同好会活動

同好会活動

共通の趣味を持つものが集まって活動している。特に演芸クラブは“さくら芸能”として福祉施設等の慰問等で活躍している。また、手芸クラブは独自事業としても、ふるさと祭り等で販売活動も行っている。



手芸クラブ“さららの会”・萩



園芸クラブ



囲碁クラブ



カラオケクラブ



工芸クラブ・須佐



手芸クラブ“すみれ会”・須佐



手芸クラブ・田万川



演芸クラブ“さくら芸能”

発注者の声



介護老人保健施設
徳寿園 施設長

多田 穰治

設立20周年のお祝い

社団法人萩広域シルバー人材センター設立20周年、誠におめでとうございます。心からお祝い申し上げます。

私ども医療法人社団慈生会介護老人保健施設 徳寿園では通所リハビリテーションでご来園いただいています要介護・要支援状態の利用者の方々の送迎を平成10年10月よりお願い致しております。毎朝8時より夕方16時より各2時間ずつの業務ですが、こちらが期待している以上に、安全に、優しく、丁寧に、運転業務という非常に重要な役割を見事に果たしていただいております。派遣された方々の行き届いた仕事ぶりには全く、頭が下がる思いです。高齢者の方々がこれまでの豊かな経験と能力を生かして健康で積極的に社会参加する、これがこれからの日本の高齢化社会の理想的な姿ではないかと思われまふ。まさにこれを実践されているのがシルバー人材センターの皆様ではないでしょうか。今後とも、業務はもとより私どものこれからの人生の目標としてもよろしく願い申し上げます。

萩広域シルバー人材センターの益々のご発展と皆様方のご健勝とご多幸を心からお祈り致します。

感謝の一言

(社)萩広域シルバー人材センター20周年を迎えられ、心よりお喜び申し上げます。

人材センタースタッフ及び会員の皆様には常日頃からお世話になっており、今ではなくてはならない存在です。これもひとえに20年間のノウハウと、たゆまぬ努力だと察するところでございます。

私共の会社は歴史も社員もひじょうに若い会社です。その中において、シルバー人材センターの皆様は私達の忘れかけておりました温故知新という言葉に再認識させていただくことができ、感謝の一言につきます。

シルバー人材センターの皆様の働く姿を見ていて、働くことを楽しんでおられるんだなあと感じており、それをどうやって社員に伝えるかが私の仕事だと痛感している次第です。また仕事以外の場においても、いろんなところで声を掛けて頂き感謝だけでなく頭の下がる想いです。今までは教えてもらう事ばかりでしたが、企業として出来る事、しなければならない事を思考錯誤しながら、人材センタースタッフ及び会員の皆様と共に邁進できればと思っています。

この素敵な出会いを大切にしながら、シルバー人材センターのように20周年を迎える事が出来るように頑張ります。

感謝申し上げますと共に、これからも変わらぬご支援を賜るよう、今後も長いお付き合いをいただこうと思っております。

20周年を節目として、シルバー人材センターの今後益々の発展を祈念すると共に、会員皆様のご健勝をお祈り申し上げます。



株式会社リング
代表取締役

吉岡 典厚



社会福祉法人
萩市社会福祉事業団
事務局長

池田 寿昭

生きがい創りを大切に

シルバー人材センターの設立20周年、まことにおめでとうございます。

シルバー人材センターとのお付き合いは、平成12年4月の萩・福祉複合施設「かがやき」の開設に伴い、デイサービスの送迎、配食サービスの配達、施設の管理宿直をお引き受けいただいたのが始まりでした。あれから、6年が経ちましたが、今では、当事業団の運営にはシルバー人材センターの貴重な人材は欠かせない存在となっています。

会員の方は、経験豊富な方が多く、心配していた配食サービスの立ち上げでは、いろいろなご意見をいただくことができました。ご利用者様一人ひとりの安否確認と要望に沿った配食をし、不在時の再配にもきめ細かく対応していただきました。平成17年度からは、配食サービスが民間事業者へ委託変更されたため、当法人としての事業は無くなりましたが、その間、大きな支障もなく無事に終了することができました。

私が、配食サービス等の業務委託をとおして感じていたことは、会員の方がご利用者様や職員とのコミュニケーションを図り、自分なりの考えを持って、業務を楽しむ、自分たちの「存在価値」あるいは「生きがい」を感じておられたことです。

私は、シルバー人材センターの目的は、会員の方の「就業の機会の確保」というだけでなく、会員の方へ「生きがい」を与えることだと思っています。これから、団塊の世代の方が数多く退職されますが、この方たちは、まだまだ、働く意欲も強く、能力も高い方達だと思っています。シルバー人材センターが中心となり、この方達と協働して新しいサービスの展開を図り、会員の方の「生きがい」を益々、増やしていくことを願っています。

最後になりましたが、シルバー人材センターが、これから益々活躍されることを心から期待しています。

設立20周年を祝して

社団法人萩広域シルバー人材センターが、設立20周年を迎えられ心よりお祝いを申し上げます。

平素は、当社にも人生経験豊富で、各分野での技術を生かした方々を適材適所に御支援賜り、また会員の方々も気持ちよく従事いただき、御活躍下さっていますことに、心より感謝いたしているところであります。

萩市も合併により広大な面積となり、高齢者は増加の一途を迎えている中、シルバー人材センターの役割は、益々増大し重要になってくるのが考えられます。このためにも、平素会員の方々の第二の人生の生きがいのためにも、健全で明るく活気のあるまちづくり参加の機会も多く、皆様の生き生きとした活躍の場が拡大されてくるものと思われまふ。

今後当社といたしましても、シルバー人材センターと会員の皆様の御協力をいただきながら、萩市発展の一助として努力してまいりたいと考えております。

終わりに貴センターの益々の御発展と会員の皆様の一層の御健勝を祈念いたしまして、お祝いのごあいさつといたします。



萩公共サービス
株式会社
代表取締役

杉山 圭佑

発注者の声



萩本陣株式会社
代表取締役会長

松村 勇

お祝いのことば

設立20周年を迎えおめでとうございます。

少子高齢化が社会問題となる中で、昨今の高齢者は単に歳を重ねるだけでなく、体力・技術力・能力共にまだまだ社会に貢献出来る環境にあります。

現在、企業の定年も60歳から65歳に延長するように指導がなされている状況ですが、シルバー人材は健全です。

当社としては、早くからシルバー人材の活用に着目し、老いても地域社会に貢献出来る人材として、観光事業を営む上で高齢者に適した部所に多くのシルバー人材を起用しており、お客さまからも好評を得ております。

これからの高齢者の生きがいと活動の場を提供する機関として、新理事長のもとで新しい発想を展開して地域社会に必要とされ、なくてはならないものとして信頼されるシルバー人材センターとなり、更に飛躍し発展して行くことを期待してお祝いのことばとします。



ふたば園児童部
施設長

久保田満知子

お祝いのことば

この度は、社団法人萩広域シルバー人材センター様が設立20周年を迎えられますことを心よりお祝い申し上げます。

私どもが、貴センターに通園バスの運転をお願いするようになって早いのもう17年になります。その間たくさんの方に、本当に気持ちよく、安全に通園バスの運転をしていただきましたことを心より感謝申し上げます。

当施設は、障がいのあるお子さんが療育を受けるために通園バスを走らせて送迎を行っていますが、私どものような通園施設は山口県内にも4箇所しかなく、通って来られるお子さんも、萩市・長門市・阿武町と大変広域から通園しております。

今では1日3台のバスを3方向(長門・須佐・吉部方面)に走らせて、毎日3人の方に運転をお願いしており、当施設にはシルバー人材センターのマンパワーは欠かせない存在です。

障がいのある幼いお子さんを乗せて運転されるため随分気を使われているはずですが、どなたも皆、当園の添乗職員が安心して送迎できるように配慮していただき、子どもたちのことをよく理解して下さるので本当にありがたく思っています。

ご自分のお孫さんのように可愛がってくださる運転手さんが子ども達は大好きです。これからもどうぞよろしくお願い致します。

最後になりましたが、今後の萩広域シルバー人材センター様のますますのご発展を祈念し、お祝いのことばとさせていただきます。



萩石見カントリー倶楽部
株式会社
代表取締役社長

田村 充正

ゴルフ場とシルバー人材センター

社団法人萩広域シルバー人材センター設立20周年と伺いました。この20年には元号が昭和から平成に変わり、その発展に携わった方々のご尽力、ご苦労、お喜びが偲ばれます。

萩・石見カントリー倶楽部は平成17年3月からスタート致しましたが、前身である石見空港ゴルフ倶楽部の時代より貴人材センターのお世話になっていてお聞きしています。ご縁あって私が当ゴルフ場を運営することになり、引き続きお世話になっており感謝申し上げます。

シルバー人材センターは全国的な制度として定着していると伺っています。私は、「人材」を「人財」と改称すべきと思っています。お世話になって1年余りですが、センターから派遣していただく人財は私どもの期待を上回るものでした。その経験、知識、丁寧な仕事は現役の従業員が学ぶべき多くのことを教えてくれます。

これからの時代、人々の価値観はますますスピードを早めて変化していくでしょう。これまでの生物の歴史をみると、生き残り発展した生物は「強い」「大きい」ではなく「変化に対応する」「経験に基づく知恵がある」がキーワードとなっています。

この事実を思うとき、シルバー人材センターの可能性は「地域」を支え、「日本」を支え、「世界」を支えるといっても過言でないとと言えます。

ゴルフ場は、「手入れの行き届いた芝こそ命」の商売であります。芝は生き物であり、その土地の気候に合った手入れがなされなければ、生き生きとしません。一般的な理論だけではうまくいきません。センターから派遣して頂く方々は長年ここ田万川地区で生活されてこられた方々で気候風土を熟知され、かつ、地域にたいする愛情を人一倍お持ちの方々であり、我が子を育てるように対応していただいております。

萩・石見カントリー倶楽部は、ゴルフという楽しいスポーツを媒体として地域の人々の憩いの場として発展し、併せて、地域の皆様に貢献できる場を目指しております。

これからの時代を思うとき、萩広域シルバー人材(人財)センターの益々のご発展を確信せざるを得ません。

日々、その発展に貢献されておられる皆様のご多幸を心より祈念しております。

会員の広場



萩地区会員

伊藤 節男

発展をめざして

萩広域シルバー人材センター設立20周年、誠におめでとうございます。
シルバー人材センターに入会して既に10数年を経過致しました。入会当時は事務局は萩市中央公民館横にありましたが、市の道路拡幅工事により現在地に移転してきました。また、機構の改革により長門・三隅のシルバー人材センターは独立し、萩広域シルバー人材センターは萩市と阿武町・むつみ村の1市1町1村となりましたが現在は須佐・田万川との統合により一層広域となって益々シルバー人材センター事業の発展が期待されております。

私は退職後先輩から入会を勧誘されて入会しました。以来、歴代の理事長・事務局長に指導・啓発を受け、又先輩や後輩に刺激され毎年毎年と、練度を高めながら年を重ねました。剪定、会場設営、市報班等各班において指導を頂き、その場その時を一生懸命に努めて参りました。

現在は萩市介護施設の「かがやき」で施設内の樹木、花だんの管理をお手伝いさせて頂いております。又一方で市内各寺のお施餓鬼のお塔婆書きのお手伝いをさせて頂いております。シルバー人材センターの親睦団体である親睦会に入会して楽しく、年1回の慰安旅行を楽しんでおります。又親睦会の内部組織である囲碁クラブと園芸クラブ、演芸クラブ(さくら)に入会して同好の方達と過ぎ去り行く人生を楽しんでいこうと頑張っております。私は多くの先輩後輩に恵まれたことを深く感謝致しております。会員一同理事長の御指導のもと、共働・共助、益々シルバー人材センター事業を進展させていかねばと思っております。



田万川地区会員

大津 修巳

シルバー雑感

シルバー人材センターの会員になって、4年目を迎えたばかりの新人です。古里を離れて40数年ぶり出戻りの私にとって、古里が余りにも様変わりしており、昔住み染んだ町なのに、改めて迷路に入った?感すらありました。

田万川を取りまく、山・川・海そして田畑そこには人と人との繋がり、生活の基盤も良きにつけ、悪きにつけ40数年の経過と共に変わったのでしょうか。子供の頃の懐かしい思い出が崩れ去ってしまいました。そんな折、友からシルバー人材センターなる会を紹介され入会致しました。

萩広域シルバー人材センター発足20周年との事、会員乍らおめでとうございます、と申し上げます。このシルバー人材センターなる会を、20年の永きに亘り育み、支えてこられた方々まさにシルバー賞ものと思っております。

ふと、シルバーなる名前の由来はと思うに…そこで雑感であるが、その一つに会員の方々に、オツムが白く銀色、所謂シルバーに輝く方が多く、シルバーと名付けられたのでは?或いは人生経験豊かで、甘いも、酸いも、辛いも噛み分けて来られた方々、まさにいぶし銀なる達人の集まりから、シルバーなる由縁か?はた又現役時代培ってこられた腕に覚えのある技量の持ち主、いぶし銀の集まりかと?…思ってみたりです。しからばこの名称が、ゴールド即ち金であったら、表現上ではこれ以上は無いと言う事かな!! オリンピックの金、相撲で言うところの横綱でこの上がなく落ちるのみか…。

人材センターは、シルバー故に発展途上にあり、仕事の質、人間性からも人材の宝庫といえると思っております。人と人との輪・心と心の和、シルバー人材センターは少子高齢化の中にあって、町の中心的な役をなし、町の活力になっていると思ひ、私もこの組織の輪の中に入り、そして会員の和の中に入れたことを嬉しく思ひ、シルバーの雑感と致します。シルバーの本当の由来を知らない方が、奥があって良いかも、ガンパロー! シルバー!



萩地区会員

福祉家事援助サービス班

河野久美子

センターに入会して

設立20周年おめでとうございます。シルバー人材センターに入会し5年になります。初めはシルバー人材センターの理念である「共働・共助」等シルバー人材センターで用いられる言葉の意味さえわからず戸惑いましたが、今では少しずつシルバー人材センターの仕組みを理解しつつあります。入会時丁度「介護保険導入」時だったため、ホームヘルパーをしていた時お世話になった社協、市役所、病院、施設等訪問しシルバー人材センターのPRをし、「介護保険で対応出来ない支援を、シルバー人材センターの仕事としてまわして下さい」とお願いしました。今家庭訪問しておりますが、ヘルパーの時には仕事の規制があり出来なかった事も今では、時間のゆるす限り発注者の要望にこたえられるので、気持ちがすっきりして帰る事が出来ます。今まで培ってこられた先輩の会員さんに恥じない仕事をして行こうと思っています。シルバー人材センターは仕事ばかりではありません。介護、調理、手芸、その他色々な講習を企画されています。時々参加していますが、皆さん熱心に受講され、又、和気あいあいの教室です。

私自身高齢化していく中で、お互いに励まし合い、健康を保ちながら会員同士手を携え合って協力し合い、自分の役割を果たしていきたいと思っております。



阿武地区会員

水津 初江

シルバーで学んだ人生

阿武町「道の駅」がオープンしたのは平成4年の春でした。当時はものめずらしさもあってよく買物に行っておりました。その「道の駅」の一角に温泉センターが出来つつあり、側を通る度に出来具合を横目で見ながら「掃除婦にでも雇ってほしいね…」と話し合っていました。

そうこうするうちにシルバー人材センターの募集があり、シルバー人材センターの存在すら知らなかった私でしたが、年をとっても働くことができる、また家庭の中でこなせる仕事がシルバー人材センターでお役に立てられるならばと、好奇心も手伝って説明会に行き、これなら私でも出来そうと早速入会の手続きを済ませて帰りました。道の駅より少し遅れて「日本海温泉テルメ阿胡」が夏に開業し、一方シルバー人材センターも立ち上がり、その初代所長さんのご尽力もあって温泉の近くに住む私を含む8人の会員が温泉の施設管理者として就業することになりました。当初、掃除婦にでもと話していたことが実現したのです。以来、健康にも恵まれ結局、12年間働かせていただきました。ありがたいことだと思います。

しかし、当初、慣れるまでが結構大変でした。それまで家庭の中しか知らない私に、複雑な機械操作ができるだろうか、笑顔の対応ができるだろうかなど、不安が一杯でした。また幼児、小学生、大人と料金の違いを瞬時に暗算しなければならぬ、老化した頭を叩きながらの対応でした。

思い出せばきりがありませんが夏休みの混雑期の客捌き、「靴が変っている」と怒られ、「湯がぬるい」と苦情を言われ、また湯あたりのお客様の介抱など家庭の中では味わえない人生経験をいっぱいさせていただきました。働くことの素晴らしさ楽しさ、人に対する優しさ、笑顔がどれだけ人を心地よくさせるか、人間としてとても大事なことを学ばせて頂きました。ありがとうございました。

会員の広場



須佐地区会員

山下 孝和

我がシルバー人生

1996年に須佐地区シルバー人材センター初代会長の勧めで入会した。当時は機械も無く個人の機械類を持ち寄って稼働し、水揚げの5%を経費の足しとして提供もした。設立当時会長も一生懸命で体中サロンパスだらけで皆と一緒に頑張った。無理も無い、会長は銀行屋さん上りだから。少人数で頑張ってやっている内に会員も増え行政も注目するようになり補助金も以前より多くなり機械も増し過疎地域の皆さんにも認めて頂けるようになり、今日田舎の老齢化においては無くしてはならない会だと思ふ。老人の家に行き本当に喜ばれた時、自分達も無類の喜びを感じ体の疲れも忘れます。何時までも元気で働く為には自分の体力を維持していかななくてはいけない。私は無類の酒好きで毎日一杯無いとその日が終らない。だが年齢は毎年取る。これではいつか体を壊す時が来ると思っていた矢先、ある友人から宿直の仕事があるが人手が無い。貴方も酒好きだから休肝日を作る為に勤めてみてはどうか？と持ち掛けられ即実行に移し今年で9年になる。又食べ物も自己流で余り肉は食べない。食べても野菜炒めで月3回程度。魚はよく食べる。中でも小アジのセゴシ・小魚を骨ごとよく噛んで食べる。お陰で今日まで抜いた歯は1本も無い。全部自歯だ。それと野菜はレタス、玉ネギのスライスにパセリにゴマだれで交ぜて食べ、玉子は余り食べない。飲物は焼酎。若い頃はビールも飲んでしたがプリン体が多く、尿酸が高くなるので駄目。清酒は後に残って駄目。焼酎も安いのは内臓を壊すから駄目。牛乳と味噌汁は朝夕に。これが私の健康法だ。皆さんも高齢者だから体に気を付けて世の為、他人の為、家族の為、自分の為にいつまでも元気で頑張ろう。

20周年記念感謝状・表彰状贈呈者

(順不同・敬称略)

感謝状贈呈者

有限会社萩桐箱店
萩本陣株式会社
株式会社リング
興和産業株式会社

表彰状贈呈者

会員 (18名)

小坂 亮
柴田 モヨ
柴田 明
西山 聰
伊藤 節男
栗田 梅人
窪田 千代子
杉山 孝子
阿武 新吉
平野 吉朗
山本 ミドリ
秋丸 一枝
宮木 巧
水津 初江
大賀 眞治
鮎川 武夫
井上 正美
黒谷 道男

役員 (8名)

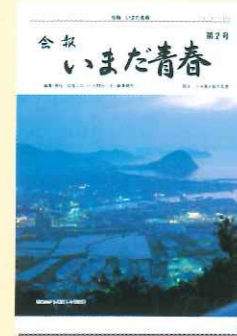
大谷 長太郎
三好 幸男
中野 了佑
阿武 キヨ子
木村 進
陽 正和
藤井 康夫
伊藤 勇

職員 (2名)

末益 幸助
堀 雅子



第1号



第2号



第3号



第4号



第5号



第21号



第22号



第23号



第24号



第25号



第6号



第7号



第8号



第9号



第10号



第26号



第27号



第28号



第29号



第30号



第11号



第12号



第13号



第14号



第15号



第31号



第32号



第33号



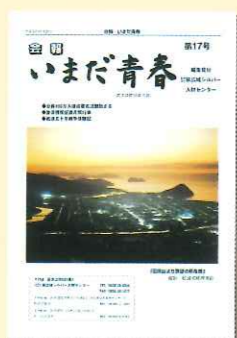
第34号



第35号



第16号



第17号



第18号



第19号



第20号



第36号



第37号

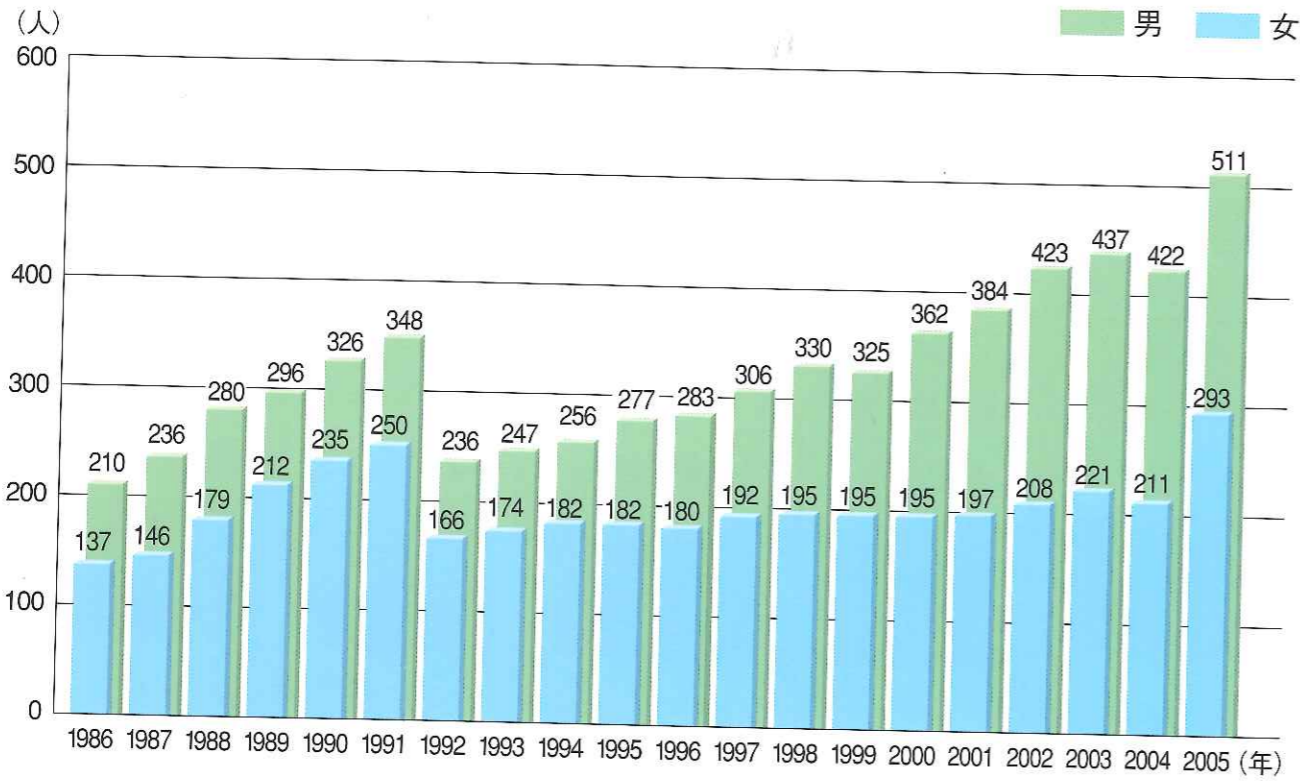


第38号

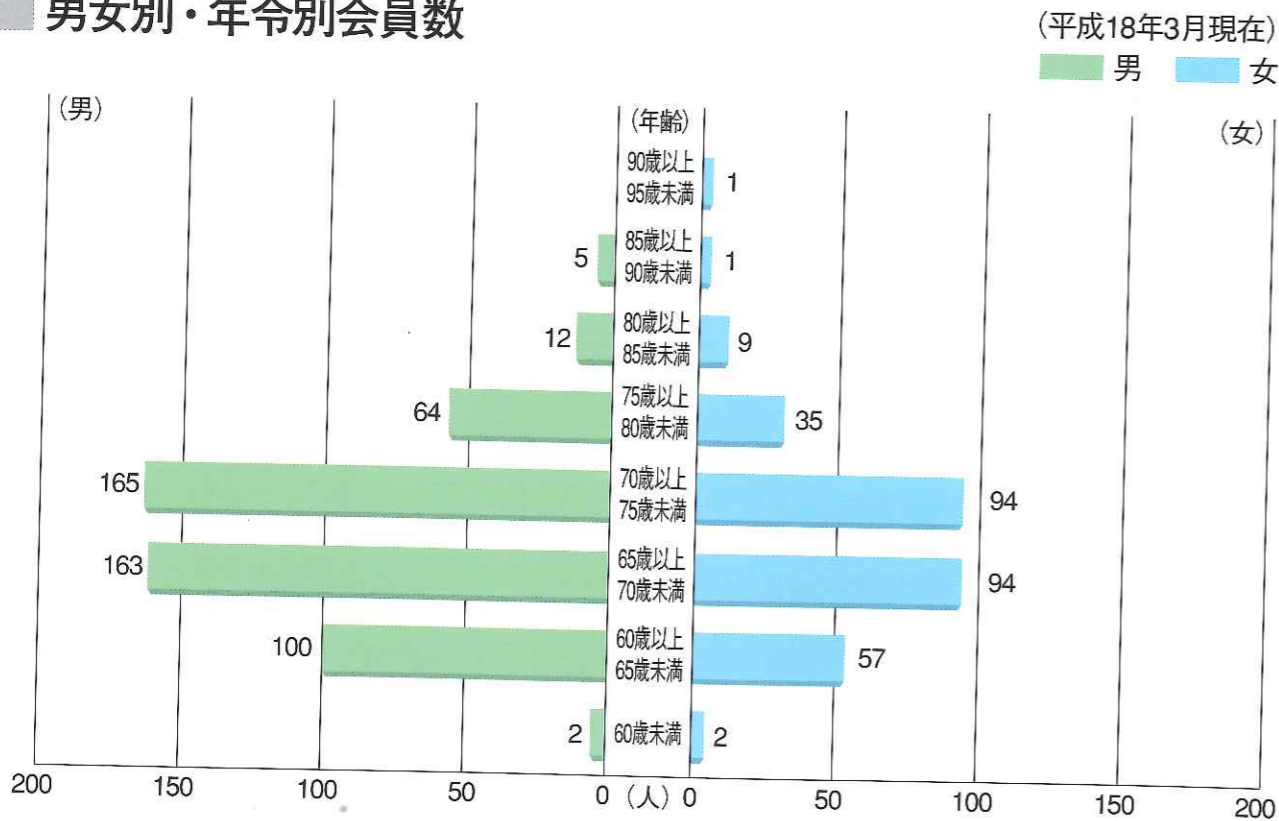


第39号

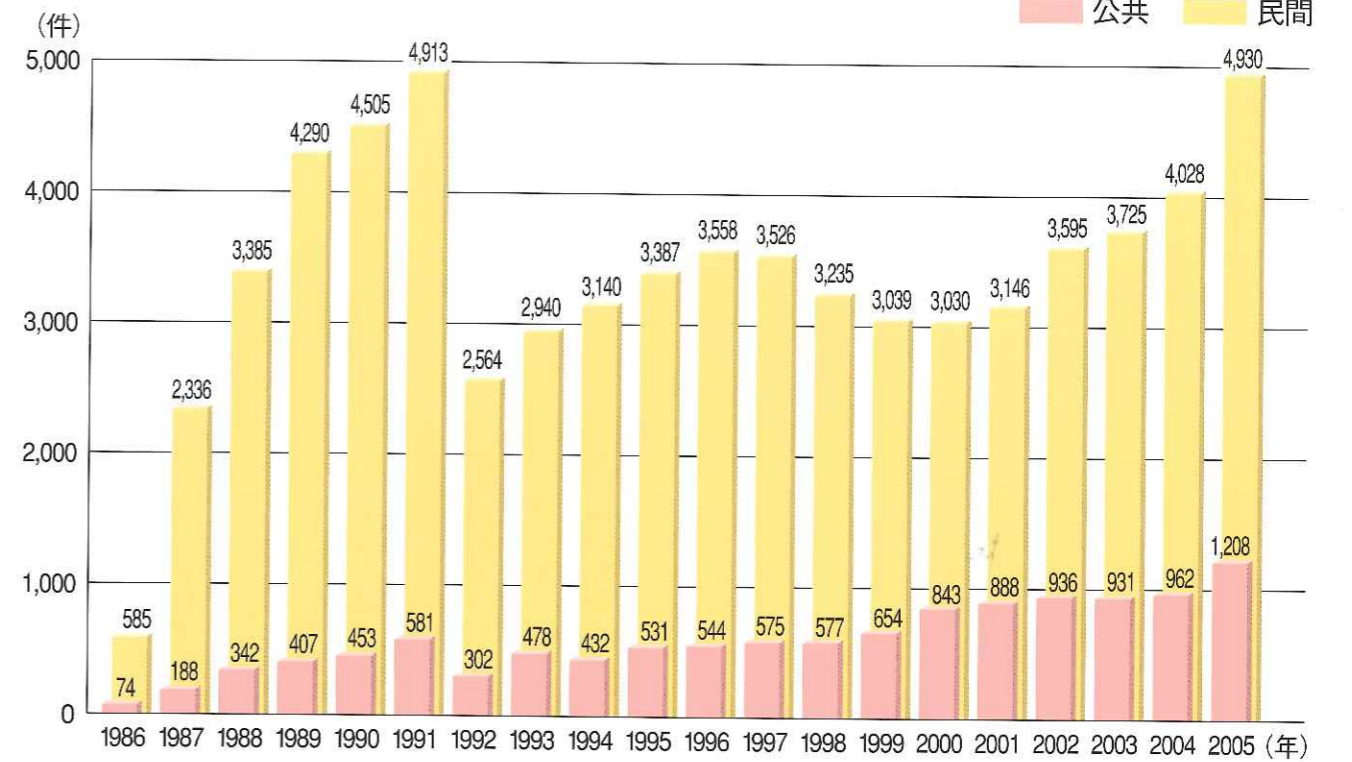
■ 会員数の推移 (男女別)



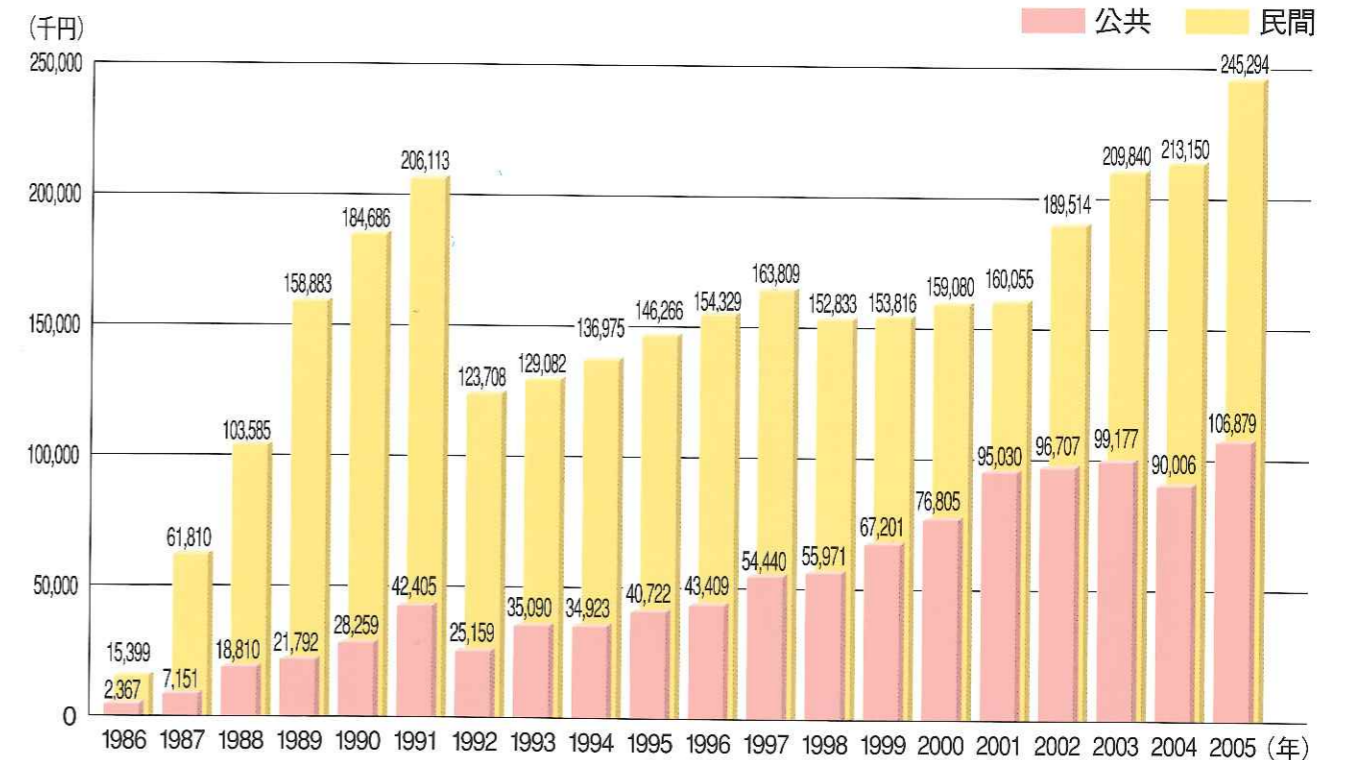
■ 男女別・年齢別会員数



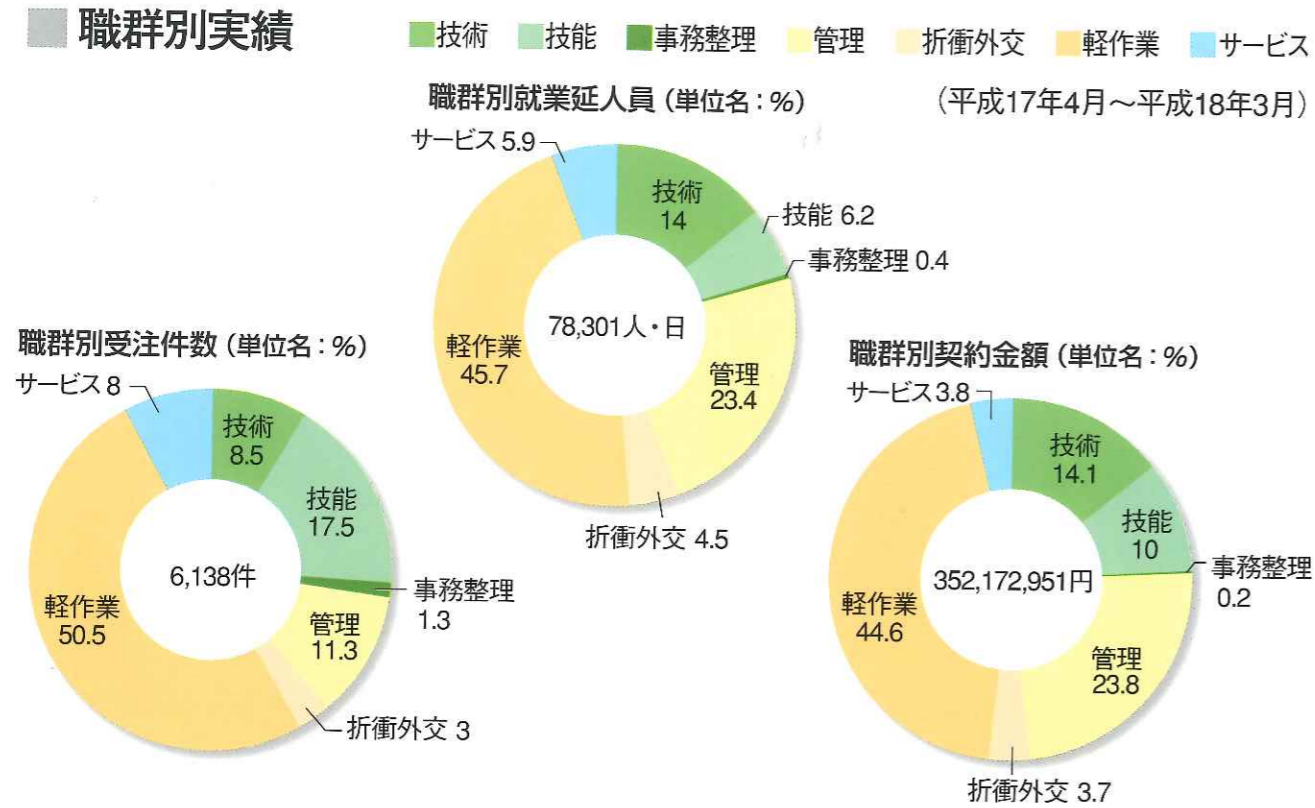
■ 受注件数の推移 (公共・民間別)



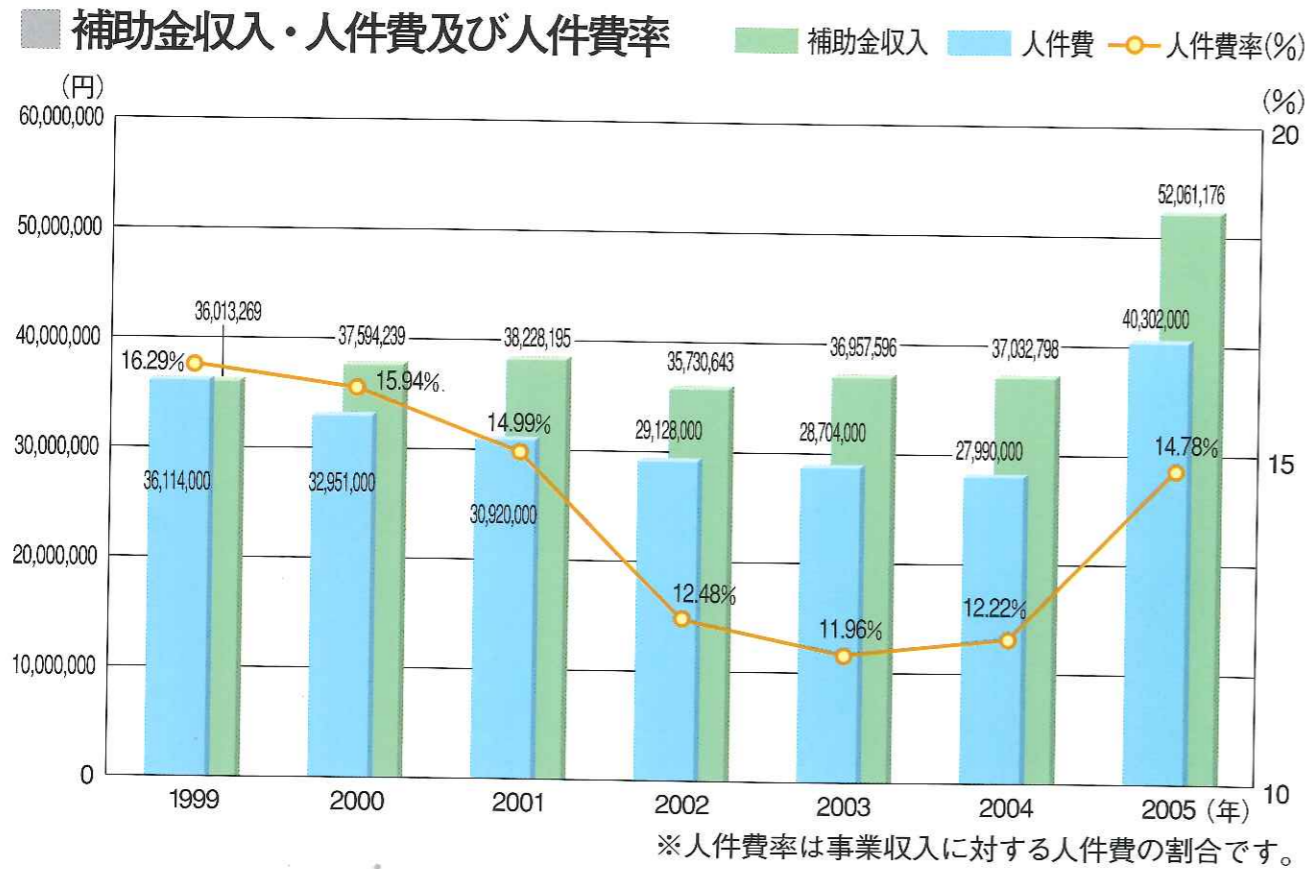
■ 契約金額の推移 (公共・民間別)



職群別実績

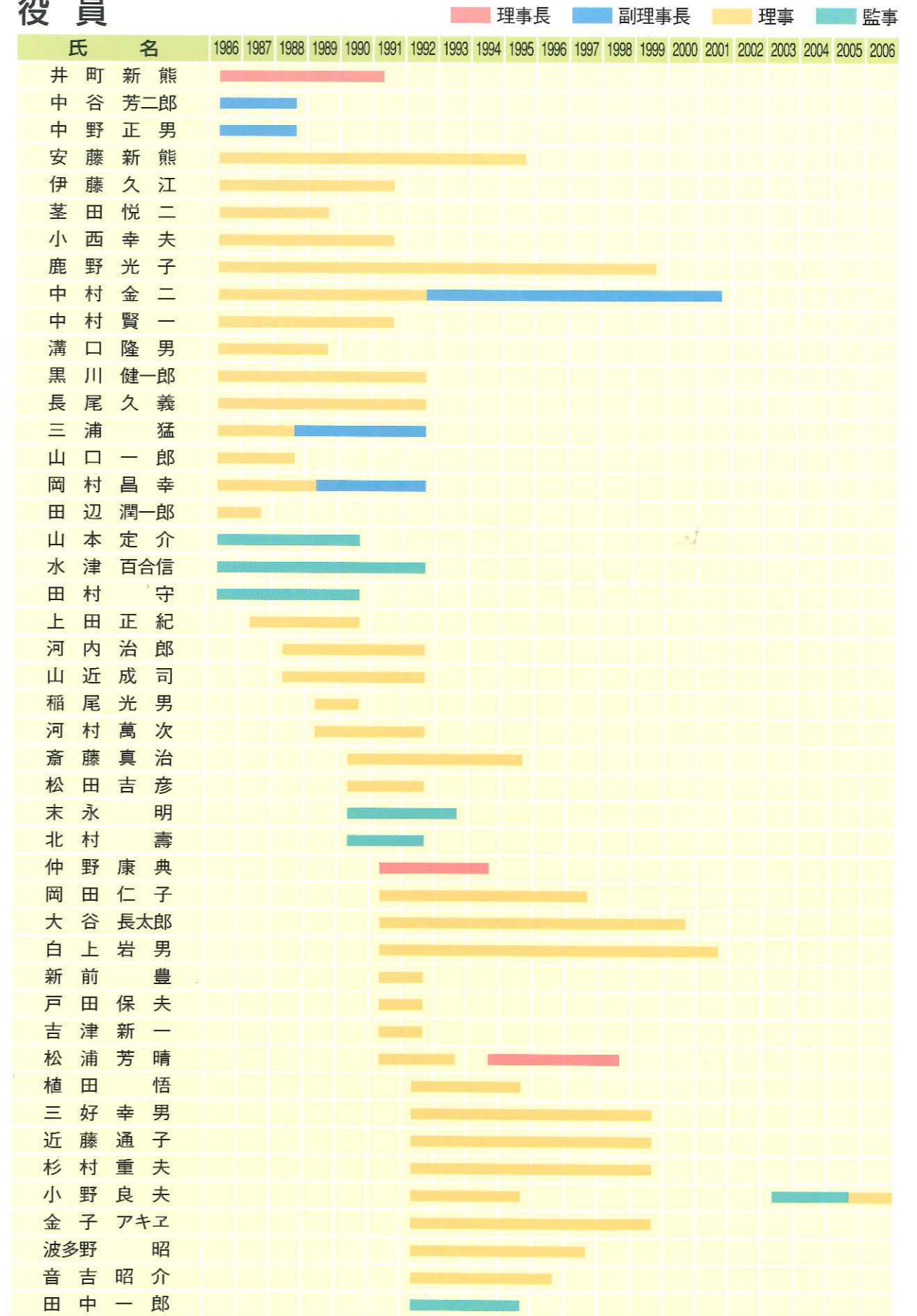


補助金収入・人件費及び人件費率



歴代役員・職員

役員



現役員紹介



後列右から
 中野 悦子 監事
 陽 正和 理事(広報担当)
 河野久美子 理事(福祉・家事担当)
 豊田 滋 理事
 小野 良夫 理事
 山見 豊 理事
 竹中 薫 理事
 高杉 勇夫 理事
 杉村廣太郎 理事

前列右から
 松浦 泰 理事(就業担当)
 椿 幸夫 理事(安全担当)
 藤井 康夫 副理事長
 池永 勲 理事長
 松原 純二 理事(萩市商工観光部長)
 岡村 久 理事(阿武町経済課長)
 伊藤 勇 理事
 品川 敏行 監事

職員紹介



後列右から
 阿武 英司 萩事務所
 森田 一宏 萩事務所
 長岡 修 萩事務所
 近藤 禄江 阿武出張所
 前列右から
 小橋 一生 萩事務所
 堀 雅子 萩事務所
 渡辺 明 萩事務所(事務局長)
 末益 幸助 萩事務所
 有田 源二 むつみ出張所



右から
 中村 陽子 田万川出張所
 宮田 直熊 田万川出張所
 五藤 龍三 須佐事務所
 嶋田 記武 田万川出張所
 田村 泰子 須佐事務所



岡 久雄 阿武出張所

設立20周年記念事業実行委員会

式典部会

部会長 小野 良夫
部員 河野 久美子 渡辺 明
田中 浩 堀 雅子
大賀 眞治 田村 泰子
品川 敏行

記念誌編集部会

部会長 陽 正和
部員 高杉 勇夫 大塚 美秋
大谷 長太郎 渡辺 明
吉屋 恭子 小橋 一生
藤谷 幸資 五藤 龍三

編集後記

社団法人萩広域シルバー人材センターは昭和61年9月に設立され、今年で20周年という記念すべき年を迎えました。この間、分割、再編、統合といった組織の変遷を経て現在に至っております。

編集に当たるなかで、このような経過をたどりながらも地域社会のなかに根をおろし、実績を積み重ねてこられた役員、職員、会員のみなさんの努力に強い感銘を受けました。当センターの前途に心強いものを感じました。

この記念誌が、単に20年を回顧するだけでなく、今後の道しるべとなれば幸いと思います。

本誌の編集にあたりましては、関係各位より懇篤なご祝辞を賜り深くお礼を申し上げます。又会員の皆さんから心暖まるご寄稿をいただき誠にありがとうございました。

記念誌編集部会 部会長 陽 正和

社団法人 萩広域シルバー人材センター 設立20周年記念誌 あゆみ

発行日 平成18年10月1日

編集 設立20周年記念誌編集部会

発行 社団法人 萩広域シルバー人材センター

印刷 (有)マシヤマ印刷

※表紙・中表紙：大谷長太郎(会員) 目次：宇田和義(会員)の撮影によるものです。

